

## 平成 26 年度第 1 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 26 年 4 月 24 日（木） 18：30 ～ 19：50

【場 所】 聚富会館 ホール

【出席者】 13 名（15 人中）

| 役 職 | 氏 名       | 出欠 | 役 職 | 氏 名       | 出欠 | 役 職 | 氏 名     | 出欠 |
|-----|-----------|----|-----|-----------|----|-----|---------|----|
| 会長  | 佐 藤 勝 彦   | ○  | 委員  | 小 山 玲 子   | ○  | 委員  | 前 田 和 也 | ○  |
| 副会長 | 渡 邊 教 円   | ○  | 委員  | 今 光 江     |    | 委員  | 美 馬 康 子 | ○  |
| 委員  | 大 黒 利 勝   | ○  | 委員  | 柴 田 志 寿 子 | ○  | 委員  | 盛 重 栄 司 | ○  |
| 委員  | 小笠原 英史    | ○  | 委員  | 柴 田 肇     | ○  | 委員  | 築 田 敏 彦 | ○  |
| 委員  | 河 野 す み れ | ○  | 委員  | 高 橋 敬 二   | ○  | 委員  | 吉 田 美 香 |    |

※正副会長を除き、あいうえお順

本 庁 ～ 企画課 高野課長・上窪主幹・門井主任

支 所 ～ 尾山支所長・熊谷課長

事務局 ～ 高田課長・相原主幹・渡部主任・永澤主任・寺内主任

(地域振興課)

【傍聴者】 3 名

【次 第】 1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 情報交流（リラックス タイム）

・地域の「ちょっといい話題」交流

4. 報告事項

- ・支所人事異動による新任紹介
- ・地域おこし協力隊員の紹介
- ・地域協議会情報誌「厚田区あったかニュース第 6 号」の発行について（資料 1）
- ・複合施設構想策定委員会からの経過報告

5. 協議事項

- ・住民主体による新たな地域づくり  
～地域、住民を巻き込むための新たな手段、方法を探る～

6. その他

- ・次回会議の日程について

7. 閉会

## 1. 開会

高田課長： 皆さんお晩でございます。地域協議会に入る前に、今委員、吉田委員の2名から欠席の連絡を受けておりますので、報告をさせていただきます。

平成26年度第1回石狩市厚田区地域協議会を開会致します。会長から挨拶をよろしくお願い致します。

## 2. 会長あいさつ

佐藤会長： 皆さんお晩でございます。今日は場所を変えて聚富会館での開催となりました。少し前から気になっていたのですが、厚田では厚田保健センター、望来ではみなくと協議会を開催しておりましたが、厚田区には聚富は無いのかと言われそうな感じも少しし、気になっていたところでした。今回、ようやくこの聚富会館で地域協議会を開催する事が出来ました。今日は色々と協議事項もあり、複合施設の件では地域がどう協力し、巻き込みながら厚田をどう活気付けようとか、元気にしようという事で、正に地域協議会第5期の正念場になるという風に思っております。どうぞ異端の無い意見を出していただきたいと思いますし、皆さんの元気が実は厚田の元気となるものですからよろしくお願い致します。

## 3. 情報交流（リラックス タイム）

## 4. 報告事項

- ・支所人事異動による新任紹介（厚田支所尾山支所長から口頭説明）
- ・地域おこし協力隊員の紹介（厚田支所尾山支所長から口頭説明）
- ・地域協議会情報誌「厚田区あったかニュース第6号」の発行について

（資料1に基づき渡邊副会長より口頭説明。）

### 複合施設構想策定委員会からの経過報告

（スクリーンを使いPPTに基づき佐藤会長から口頭説明）※資料「複合施設PPT」

佐藤会長： 複合施設の構想策定委員会からの経過報告という事で、私の方からプレゼンをさせていただきます。構想の方向性が決まっただけの段階である事から、ペーパー等の用意はしておりません。つまり中間報告というところまでも進んでおりませんので、今日は経過を説明させていただきます。どうしてこの時期なのかという事ですが、現在までの経緯を少し整理すると、この複合施設に関しては第4期の地域協議会で提案され、その必要性が協議されて、次期の第5期委員にそれが引き継がれました。第5期の皆さんで、一緒に協議しながら集中的に具体化して検討する為に作業部会として、この建設構想策定委員会を設置したという経過になっております。過去に5回検討会が開催された経過を皆さんに報告した中で、今度は、地域の皆さんに説明し、多くの人に参加をしていただくというところまで来ました。ここまではワーキングという事で限られた人達だけで基本的な構想をずっと練ってきましたので、次は地域の人に入っていただくという段階に入って参りましたので、ここで報告をさせていただきます。その策定委員会は、色んな方が入っておりますので、現状の認識と色々なスタンスの人がいますので目標を共有していただくために、目的や役割と作業の進め方を共通認識していただきました。この厚田区の状況を分析するために色々なイベントやっております。例えば、アクアレーンも大きなイベントとなりますが、資料室の集客ですとか朝市にいったいどれ位の人が来ているのかという集客状況

や年間行事という事で、厚田区では一体どんな行事が年間で行われているのかという事だとか、厚田区内だけではなく、隣の札幌市ですとか、岩見沢、留萌市、浜益区、当別町といった近接する所という事で厚田区を取り巻く周辺の状況を分析しました。それから今度は、地域協議会から立ち上がった厚田区の七つの地域振興団体が今、何をどうやっているのかという事やそれらの団体をどう結び付けていくのかという事も一応分析しました。それから、もう一つ重要な事は、5年、10年先の人口が減っていった時の厚田はどうなるのかという将来像ですが、負の循環の中を脱する為に、将来こういう風な事をすればきっと厚田の人口は増えるだろうとか、先ほど言いました近接市町村に働きかけるという事で、190万都市の札幌市とかに対し、厚田にもっと人を呼び込んでくる事が出来る可能性がもっと残されているので、そういう厚田区の将来像を描きました。それから、計画の策定イメージを何となくのイメージとして作り上げています。策定期間は大体どの位なのか、それから構想するエリアをどの辺りに考えるのかという事と、これからの公共施設というのは、今までのように運営する全ての予算や何かを丸ごと行政が出すという事は、日本全国探しても今やもう不可能です。高齢化し、人口が減少する中で税収も減り、そういう事はとてもでないが出来ない。それを運営する為には、母体をしっかりと運営出来るような形という事で、第三セクターを通り越し、個人で運営するような事が出来ないかというような事も検討しました。あとは、財源の問題でこの施設には一体いくらかかるのかという部分で、これは決定ではなくイメージとして作っておかないと紙に書いた餅になり、話しを小さく言う人と大きく言う人と様々ありますので、その辺りは大体、標準的なところで話しを進めていけるように作っておりました。それから構想策定に共有化という事で、共有化をする為には、ワークショップが一番良いと思われる事からワークショップを実施しました。例えば、この素晴らしい厚田の自然を含め、どんな事を将来に亘って残していきたいのかという事や、こんなものがあると厚田区はもっともっと元気になるだろうというような部分で、先ほど言いました“近説遠来”ではありませんが、近くの人達は当然喜ぶ訳ですが、そういう人達の喜びにより、遠くの人達がどんどん来てくれるという事で、厚田の元気な笑顔が多くの人達を引き寄せてくる事になるという事で、ワークショップは大体この二つで行いました。厚田の魅力を残すという事と厚田にこんなものがあつたらもっと元気になるだろうという事をメンバーの中で共有しました。こういう事を行なった中で、複合施設で言いますと大体二つに分類されますが、それは何かと言いますと“集中型”という事で、例えば、資料室を資料館とするとした場合に、大体が“集中型”となります。日本全国どこへ行っても博物館だとかは大体一つの建物となりまして、そこに郷土の資料や何かを展示するというのが今までの決まりとなります。元々の始まりは資料室を資料館にしたいという厚田村時代からの悲願であった訳で、普通に考えるとこれが集中型となる訳です。ところがもう一つ“分散型”というのもありまして、いくつかの建物を今ある市街地の中にスポットで幾つか置いて機能を持たせるという事で、当然、その中に資料館という機能を持たせる訳ですが、その資料館だけでは厚田全体、或いは厚田の旧本村を元気にする事は出来ないで、それに伴って今までやっていた「あつたこだわり隊」とか地域の人達のコミュニティーにしたりとか、お店にしてそこで営業したりという事で、色々な人達の考えの建物を分散させていくという事となりまして、こういう“集中型”と“分散型”という事で検討しました。“分散型”のメリットと“集中型”のメリットとデメリットを検討し、皆で挙げた結果、“分散型”のメリットとしては、資料館とか博物館というのは大体“集中型”となりますことから、そういうものを市街地に分散し、遠くからと言いますか、来る人達をそこへ導いていくという導線を作る事で、“分散型”のメリットとしては非常

に注目度が高いだろうという事。それはなぜかと言いますと、どこもやっていないからであり、そういう意味での注目度の高さがあります。地域を活性化する為のそういう方法もあるのかという事の一つのメリットにもなりますし、それから訪れた人達が街中を回ると思いますので、回遊性の中で地域にお金落ちるという意味で経済効果が高いだろうと思われれます。それから、今ある商店街を再生させる為には“分散型”が良いのではないだろうかという様々な意見が出た訳で、その代表的なものをここに纏めてあります。それから高齢化してきており、市街地とかの住民はそういう所に点在すると歩いて行ける訳で、どこか違う所に集中型が建ってしまうとそこまで行くのが大変だったり、そこに住んでいる人達がわざわざそこに行かないといけないというような不便さやなんかがある訳ですけれども、そういう住民の利用度が高くなるだろうというメリットがあると思われれます。それから、厚田区全体は縦に長い地形となりますが、厚田区全体の展開が可能になるだろうと思われ、本当にそこに住んでいる人と来る人達の接点が非常に多くなってくるだろうというような分散型のメリットもありますが、一方ではデメリットもあり、全部が良い訳では無くて維持管理という部分で、“集中型”の場合は、一つの建物を維持管理するのであれば良い訳ですが、点在している建物を維持管理していくとなるとその建物の責任を持たなければならなくなり、例えば、私がその建物でお店をしますと言ったら、私はそこでお店を営む訳ですが、同時にその維持管理もし、経済的にペイしなければならない訳です。先ほど言ったように行政におんぶに抱っこで管理費を出してもらおうという訳にはいきませんので、そういう事をしなければならない訳ですが、そうした場合に、その維持管理が点在する数の分だけ維持管理をしなければならない訳であり、それからもう一つ、少子高齢化というのがデメリットのワーストワンになります。今、ご覧のように厚田区の十字街商店街を見ていただいても解ると思いますが、後継ぎがおらず少子高齢化により維持管理が難しいという事があります。もう一つは、防災対策についてですが、これは十字街の旧本村の所を想定しての話となりますが、この辺りは海拔がだいたい4m程度となっており、海拔4mの所に今この時代に、公共施設を建てる事が出来るかと言いますとこれは、全国的に見ても「NO」だと思います。やはりこういうデメリットもあり、建物も点在していますからやり方によって各施設の集客に差が出てくると思いますが、これは仕方のない事であり、例えば、どこかにはたくさんの人が集まり集客があるけれども、一方では閑古鳥が鳴いている所もあるというのは仕方ないと思われれます。

次に、客が寄りにくいという部分ですが、例えば、“分散型”にし、成功している所というのは、歴史的な建造物があるという事で珍しい物がある訳ですが、歴史的に見たら価値があるという事で、歴史的な価値の高いものであったり、それから素晴らしいスイーツがあつて、あそこに行って一度食べたいなというような特色のあるものが点在していると、来る人達がずっとそこを通過して行きますので良い訳ですが、何があるか解らないといったら客をそこに導いてくれる導線を作るのは、なかなか難しいかなと思うデメリットもあります。それから、冬の除雪であったり、駐車場を整備するという事になると結構なスペースが必要となって来るので、自宅であれば駐車場は車が1、2台停めるスペースがあれば良い訳ですが、こういうある程度の公共性を持つものとして考えると必ずこの駐車場に対する問題は出てきます。

もう一つは、“分散型”をする前に例えば、それは公共施設ですから市の土地であればそこに建てられる訳ですが、全然違う個人の土地であると、今度はそれを買収しなければならないというデメリットも当然、この“分散型”には出てきます。このように“集中型”と“分散型”について、メリットもあるけれどもデメリットも幾つかあるという事

が検討の結果出ました。それから“集中型”ですが、デメリットはあまり無い訳ですが、もっと議論すればたくさん出てくるかも知れませんが、メリットとしてはシンボル性が高いという事。これは他所に素晴らしい建築物があったら、まずは珍しさというのがあり、それから厚田という事で札幌の大多数の方々からすると、厚田というと聚富でも無ければ、望来でも無い訳でそういうイメージを持っております。それからそういう所にある“集中型”の建物が建つと、シンボル性が非常に大きくなりますから、集客という意味では大変メリットがあると思います。それから、そこで何かのイベントを開催しますと、その賑わいというのが集中してそこで行なわれますので、通りがかりとかの人からすると賑わいそのものが見えやすい。“分散型”で人が散らばっているのを見るよりは、一極集中で、そこにたくさんの人が来た方が賑わい効果が大となり、これはメリットとなります。また、既存の市街地や何かへの影響は少ないと考えられるというメリットと、市街地の活性化という点から考えますと、デメリットとなる事も考えられます。もし、建てるとした場合に建築場所が国道沿いだったと考えますと、国道通行車両の立ち寄りというのが期待されると思います。観光という点でも、シンボル性が大という事で観光の効果が大きいと考えられ、集客が容易だという事で、先ほどの分散型では人を導いてくるのは難しいという事がありますので、色々なコマーシャルや看板を立てながらも集客は難しいが、“集中型”はこのメリットが大きいという事です。デメリットとしては、分散型だった場合にそこまで大きい建物ではありませんので、その住民が参加しながらこういう建物という風に住民そのものがそこに直接的に参加できますけれども、集中型というのはある程度のデザイン性ですとか、ある程度の規模を持っていますから、ある程度の専門家が設計をしていく訳ですが、そのプロセスにはなかなか素人や住民は参加できないのかなと思います。

それから維持管理の選択についてですが、これは“集中型”のところを管理する時に、先ほども言いましたが管理する時に、管理費から管理する人全てに関して行政が丸抱えでやってくれる訳ではありませんので、その維持管理を誰がするのかという事。それからそこでまた、経済的な効果を高め冬でも運営していけるような管理が出来るかという維持管理の選択が難しい一つのデメリットになるかなという風に思います。そこで、今の“集中型”それから“分散型”のメリットとデメリットがありますから、これらを総合して検討する選択肢の視点としましては、要するに“集中型”にするのか“分散型”にするのかという選択肢が一つありますので、ここを議論しなければならない。それから、観光や産業振興に対応するという事で、要するに多くの人達に来てもらう事で産業を振興していったり、或いは、観光のスポットにするというようなものなのか、単に住民のニーズに答えられるようなものにするのかという事だと思います。それから他の地域からの集客を優先するのか、区内のそこに住んでいる住民の利便性を優先するのか、或いは、ポジティブに将来を考えて厚田の活性化の為に、ある手を積極的に打っていくという事を行なっていくか、守りに入って地域課題を解決していくような事で、出来るだけそこに住んでいる住民の便利さとかといった、今現在、必要なものを解決していくかという事で、どちらにするかという事は相当議論が必要となりました。そして、議論した結果としてこの“集中型”と“分散型”の両方の良いところ取りは出来ないかという事で、両方のメリットを活かせないかというようなところに議論の結果、辿り着いた訳です。要するに、食と文化の屋台村という事で、私自身も何回か行った事がありますが、色んな食べ物屋とかが屋台村のように一つに固まって並んでいる訳ですが、結構繁盛しておりまして、それぞれが独立している訳ですが、食と文化という事で、文化とは何かと言いますと文化遺産や何かを展示する訳ですが、そういう食と文化の屋台村のようなものを発想出来ないかという事

で、これはあくまでも仮称となりますので、これは勝手に決めた名称なので、後には良いのが出てくると思うんですが、そういう構想に今のところ辿り着いた訳です。分散型というのは、先ほどの資料でも色分けしておりまして、先ほども言いましたようにそれぞれに機能がありますので、この機能を集中型の機能の中に分散型の機能を入れてしまおうという事になります。例えば、資料室の資料を展示する場合、どうしても展示室が必要な展示物と分散されて入っているハウスの壁面を使用して展示出来るものであったり、色々と展示する為の工夫がこの中で出来るのではないかという事も検討しました。それぞれのパーツは大体が同じ大きさになりますが、この集中型の中に入るハウスの大きさはバラバラであり、大きなハウスである機能を果たすのか、小さなハウスでその機能を果たすのかという事で、例えば、屋台村ですから食べ物一つ、或いはスイーツ一つ、こだわり隊で販売している新鮮な野菜や魚なんかにしても、どの位のスペースで売ったら良いかという事にしても、それぞれのスペースの大きさは違う訳で、一つの建物の中にそれぞれの分散型の機能を入れてしまうのはどうだろうという事を考えました。つまりシェアというものの考え方となりまして、シェアというのは全く異なった人達が一つの部屋をシェアするという事で、いわゆる共有という事で、一つの家を共有するという事になり、生活はバラバラであり、生活スタイルも機能も全て別という事です。これからの時代はこの“シェア”が一つのキーワードになるだろうと言われております。前までは、私の会社のシェア率は80%だと言っているんですが、つまりは占有になるんです。例えば、ワークシェアというように失業者がたくさん増えたら8時間労働の人を6時間労働にして余った2時間をワークシェアし、その失業者に余った2時間を与えるという事で、共有という考え方に今、変わってきておりまして、正に、この集中型の建物の考え方でいうシェアという事で、共有という事になりますので、シェアセンターと言っても過言ではないでしょう。そういったハウスが幾つか中に入って参りまして、次のステップが重要となりまして、地域協議会にこうやって報告し、地域の人に解っていただくのはこれからの事となりまして、私達の作業部会ではここまでの分析をし、将来のところまで考えた訳で次のステップは「食と文化の屋台村（仮称）」を例えば、構想したとしますが、それぞれのハウスにどんなもの。すなわち誰がどんな店とかそんなものを運営するのかという地域の人達の問題となってくる訳で、より多くの人達で将来的に住民があそこに参加する。それから厚田は素晴らしいからあそこに移って、私はこういう事をやってみたいという移住者だったり、こういう施設があるんだったら是非、都会で生活しているけれども元々は厚田に住んでいたとか、親は厚田に住んでいるというようなUターンであったり、Iターンの人達の人達を呼び込みながら「食と文化の屋台村（仮称）」をある活気づいたものにしていくというような次のステップとなります。その為に、住民達がそれであつたら自分もあそここのところでやってみようとか、やってみたいと思った人がやる可能性だったり、あれは面白いと思う人達がこれからは、私達の閉じられた作業部会では無く、もっとオープンに広げていきたいと思ひますし、これは地域協議会の作業部会となりますので、この策定委員会では勝手にそういう事は言えませんので、策定委員会としては、次は、皆さん達の地域協議会の了解を得た上で、この策定委員会をもっとオープンして良いかどうかを確認し、オープンにする理由としてはそれぞれのシェアハウスを誰がどのように運営していくかというもっと細かな具体的な計画に向け、進んでいきたいなという風に思っておりますので、今回はこのような経過説明という形で、中間報告というところまでは進んでおりませんので、構想の段階としてはここまで来ましたのでもっと住民に参加してもらい、あそこに具体的な人とか資料の展示をどうしていくかという事を一緒に考えてやっていきたいと思っており、たくさん質問を受け

たら検討の構想の段階となりますので、充分にお答えする事が可能かどうか解りませんが、経過説明をさせていただいたと思います。

## 5. 協議事項

### 住民主体による新たな地域づくり

#### ～地域、住民を巻き込むための新たな手段、方法を探る～

佐藤会長： 報告は閉じさせていただき、住民主体による新たな地域づくり～地域、住民を巻き込むための新たな手段、方法を探る～という事で、今回で3回目となりますが、これが今日の議事という事になりまして、今の経過報告の中の色々な質問もこの議事の中で、回答出来るところは回答していこうと考えておりますので、議事に入りたいと思います。

住民が主体となって厚田を元気にしていくという新たな手法や手段というものを少し探っていきたいなと思います。先ほどの経過説明の質問等でも構いませんので、そういったところからでも口火を切っていただきたいと思います。

例えば、小山委員があそこのハウスの中でこういう事をしてみたいとかという具体的な事でもウェルカムなので、何かありませんでしょうか。

小山委員： 今朝も家族で話し合いまして、複合施設を建てるとした場合に場所が第一かなと話しておりました。厚田は建てるとしても平らな場所があまりないと思われ、場所があれば集中型でも考えており、まず広さから考えてしまいまして、この部分は後から考えれば良いのかどうか。

佐藤会長： 場所と広さという部分ですが、市で持っている場所といっても広い場所はあまりないと思います。

小山委員： 元の庁舎の所に建物を建ててという事で、中身の無い事です場所の事で今朝、盛り上がりました。

佐藤会長： こういう風に色んなところで盛り上がってもらう事で、そこから夢が広がると考えますし、元気になる秘訣というのは当然、実現すればそれに越した事はありませんが、多くの住民達が夢を語るという事から始めないとなかなか元氣にならないし、現実ばかりを見ているとだんだんと暗くなっていき下を向いてしまうので、最近、重たいと感じる事がありますが、頭に物が詰まっているのではなくて、現実が暗いのかなと感じます。

柴田(肇)委員： おおまかな今後のスケジュールで大体、着地点をどの辺位に想定されているというのをまず決めて進めていかないと躓いたり、どこかで障害があったりすると滞りますので、この辺の大まかなスケジュールの見通しと、その終着点の時点で、さて財源はという話になりますので、この辺を含めるとイメージとしてどんな風になるのかなというのをお聞きしたいと思います。

佐藤会長： お金の部分は、支所長どうでしょうか。

尾山支所長：        こういったある程度の構想が決まらないと建築費とかも算出出来ないと思います。

柴田(肇)委員：     今、スケジュールを立てて構想が固まったとしても、さて財源が無いからまた、それを逆に戻って直せよとなったら、これはまた無駄な錯綜した形となりますので、この辺をきちんと見通しを付けて、着実にその先には予算の確保の仕方も含めて考えていないとかなかなか難しいかなと思っております。

尾山支所長：        確かに、ご指摘のとおりだと思います。ただ、今の策定構想の中では、先ほど説明しましたけれどもまだ決まっておらず、そういう集中型の形にして、それぞれの屋台村という話を今、しておりますので、その屋台がどの位集まるのかとかという部分がかなり影響してくると思いますし、今まではどちらかというと行政サイドでは建物を建ててしまい、その中に誰かに入ってもらおうという考え方でおりましたが、そうでは無く、これからは自分達でやりたいんだという人達がどの位いるかというのものもある程度、参考にしなければならぬと思います。なぜかと言いますと、先ほども説明にありましたが、その建物全体ではありませんが、その屋台の維持管理をしなければならないという事で、あくまでもそれは経営者にしてもらいたいというのが基本となっております、行政が建ててそこを貸しますからという話しでは無く、やりたい人がどの位のスペースが欲しいのかという部分が重要視している部分となります。建物の大きさについて、どの位の大きさの建物が必要なのかという事や参画してもらおう事が可能なのかという部分もありますし、先ほど言った行政の部分のスペースも必要となりますので、そこら辺を合わせてやっていければ良いかなという風に感じます。ですから、その金銭的なものとか大きさというのは、まだこれから先の話しとなります。

柴田(肇)委員：     スケジュール的には何年後位の話しになるのでしょうか。

高田課長：        基本構想をある程度固めるのは、今年の秋位までにとは思っております。その間に、地域もそうですが、色んなところと協議し、基本構想が固まってから、次の段階である基本設計とか、実施設計へと進んでいきまして、諸々やらなければならない事がありますので、実際に実現するとするならば3年位先になるようなイメージだと思いますし、まだまだ協議する相手もたくさんあります。

佐藤会長：        この複合施設の鍵を握っているのは、住民であり、住民がやると言ってくれないと建たないんです。中のシェアする部分に誰が入るのか、どんな事をし、どの位の収益があり運営していくのかという事を結構シビアに計算し、これなら出来そうだと確定していく訳ですが、これは一人しかいなければナンセンスであり、そうなってくると今度は、集中型ではなくて、一人とか二人であった場合は、分散型となるかも知れない。それはまたこれからとなりますが、今日、皆さんにこうやって経過を報告しながら広くこれを説明して関心があったり、或いは自分の息子とか娘に面白いからやってみないかと声をかけて、1ターンやUターンを狙ったりという事に少し時間をかけて、これはある程度のイメージと広報を行なっていないとならないと思います。

柴田(肇)委員：     どの自治体や地域も公共的な建物をこれから造る場合は、やはり分散型よりもむしろそれを集約して効率的で経費のかからないもので、なお且つ、インフラ整備もしやすいよ



うな方向に進んでいるのが現状だと思いますから、基本的に、目指す方向としては、集約型の方に進んで行くのが妥当かなと個人的には思っておりまして、この中で、先ほど言いましたデメリットの部分をどうやって克服するかというような事も考えながら、住民の方に理解をしてもらうというのが良いのかなと個人的には思っております。ですから、住民説明会や何か今後、予定されているようですから、当然参加して意見は述べたいと思っておりますが、そうなれば建物を建てるという事は、当然として維持管理が発生しますので、それにコストを如何にして掛けないでやるかという事で、維持管理母体そのものの当然、考えなければならないのでそんな事も建物を建てる為の必須条件となっております。

佐藤会長： 今、柴田委員から出たご意見ですけれども、設計者は集中型でなるべくその光熱費ですとか、暖房費を出来るだけ使わない形という事で、分散型とした場合は個々に費用が発生しますので、集中型にしてかからないようにしておき、なお且つ、その中のハウスが独立して光熱暖房を行ないますので、他は使わない場合は止まっており、出来るだけ光熱暖房費というのを少なくしていくような設計をしていくような事を言っておりましたので、正に、これは柴田委員の言いましたようにそういうものがかからない訳です。

高橋委員： お話を聞いていて大体見えて来たのは、どう考えても集約型という事になりますが、お金の部分は解らないというお話でしたが、逆に屋台村のようなものをするとした場合に、予算とかそういう規模によって募集する中身も変わってきますので、枠を大体どの位にしたいというのが先に見えてこないと言論になりますので、やりようがないので、やるとした場合に、これ位だよという基本的な方針を変わっても良いので、見えないとどうしようもない。例えば、最高で10億だよというのと100億だよというのでは、全く違ってきますので、大体10億とか20億というので構いませんので示していかないと決めていかないとしますし、後は、先ほども話しにありました場所の問題ですが、場所によって住民が参加するとした場合に、住民参加が変わってきますので、それが終わってから建物の構造とかやり方をどうしていくかという事だと思いますし、どこまで後戻りして良いかも解りませんし、その方法という事で屋台村のような形にするとっており、それも確かに良い方法ではあると思いますけれども、ただ、他にもフレキシビリティという言葉があると思いますが、大きく困んでおいて中を流動的に利用出来るような発想と言いますか、公共施設というのは、割と今まではそういうのが無くて、学校であれば学校、老人の施設であれば老人の施設という事ものだと思いますが、いつも思う事なのですが、今のこの少子高齢化の中で、年齢の平等性とかそういったものに対応するのに、今まで建築されたそういう建物が無駄になってきており、改修を行うにしても莫大な費用が発生する状況となっており、無駄なお金を国中でかけている状況であり、こういう事を考えるとこれから建てる建物は出来れば、流動感があるような考え方でテナントを入れるとした場合でも、スタジオを考えると解りやすいのではないかと思いますけれども、かなり大きめなスタジオだとテレビの番組とかでも色々な事をしていると思いますので、ああいった発想で考えるような感じで、時代の流れと共に変化していけるような方向で考えると良いと思います。

佐藤会長： 高橋委員からの発言にありましたように、建物の中にあるハウスは大きな平米数のもあれば、小さな平米数のもあるという違いを形で表しておりましたが、その辺りを二つくっ付けると倍の平米になったりするというフレキシビリティをどうやってその中に造るかという事と、それからそれを建物の柱としての強度としてどの程度まで必要なのかという

事で、強度とフレキシビリティのギリギリ調整するような形に恐らくはなるのではないかと思いますので、今、おっしゃられたように将来的に今はこういう風にしているけれども、運営は出来なくて手放しますよという事で、次に、僕はこういう事がやりたいと言った時に、変える事が出来るようになればと思います。

高橋委員： 構造体を区切らないように、模様替えだけで対応出来るような形で対応出来ればと思います。

柴田(肇)委員： 複合施設となると、何と何を複合させるのかという視点もとても大切で、そこに国、北海道、市なりの予算を組む段階で他からの予算を引き込む事が出来ないのかというような視点で考えながら、例えば、緊急的な避難の性格も持っていますというのであったり、今、地域で出来上がっている住民参加の団体が使えるようにしますというような事であったり、或いは、全く違った角度で将来を考えた時に全くの私案となりますが、例えば、子供達が通う保育所が傷んできたら、そこにそういったものも併設しても良いようなものであったりというように複眼で見て複合というのは、何と何の複合なのかというのを出来るだけ広げた方が予算も獲得しやすいのではないかなというような考えを持ちました。

佐藤会長： 複合という事なので、どういう機能を複合させて、そこに持って来た時に一番人が集まるのかという事。問題は、朝市に来た人達もすぐに帰ってしまう訳なので、厚田の魅力というのはやはり、のんびりとゆっくりと一日厚田で過ごしてもらおうという事で、厚田で過ごしてくれる時には、同時に幾ばくかの金を落として行ってくれる訳なので、そういう事をきちんと計算して今、言いましたように機能はイコール経済となりますので、ボランティアだとか今までが行政がやってくれる施設そのものではなく、これから考える必要があります。

柴田(肇)委員： 先ほど高さの話もありましたけれども、緊急避難の性格を考えるとそれなりの安全な場所というのも大きな部分だと思います。

佐藤会長： 厚田中学校というのは海拔どの位になるのでしょうか。

高田課長： 大体 20m位だったと思います。

柴田(肇)委員： 避難所はどこでしょうか。

尾山支所長： 厚田では、厚田中学校。古潭では、沢田建設。望来は、戸田墓園。聚富は聚富小中学校となっております。

大黒委員： 食に対する部分は良いんですけども、食と文化という事で、文化の部分では資料館とアクアレーンになりますけれども、充分連携プレーを出来るかどうかというのを今、悩んでいるところであり、なかなか難しいところでそこを何とか皆さんの良い知恵で考えなければならぬ部分であり、料理して食べているところに展示されても困る訳であり、難しい部分だと思います。

佐藤会長：　　そういうものを貴重と言いますか、文化的価値のあるような物を展示するのはやはり展示室だと思いますので、そうではなくて描いた作品が価値があるかどうかの判断は出来ませんが、ある程度、上手い具合に壁面を使いますとそういうものを展示する事が出来ますので、その辺りの展示方法もよろしくお願い致します。

食と文化の屋台村となると価値が下がってしまいますので、屋台村という呼び名は何か違う名前になければならないなと思っており、仮称としているところです。

盛重委員：　　先ほどの複合施設の複合の選択肢を広げた方が良いという柴田委員のご意見を凄く大切にしていた方が良いのかなという風に感じる訳ですが、皆さんの言っている事はごもっともであり、集中型で現実的に予算がどうのこうのという事で、予算がこれ位あるから広さはこれ位でという事は、そこに目がいきがちだと思うのですが、何の為にその施設を建てるのかとか、何で呼び込みをしたいのか、その施設にどうして来てもらいたいのかというところのコンセプトなり、何なりというのがぼやけて予算ありきみたいな形に捉われてしまうと来てもらう価値というか、輝きを失ってしまう気がするので立ち上げと言いますか、今の段階の部分では、白紙の状態に近いと思いますので、先ほどの大黒委員のように資料館の部分と食なのか何なのか、もしかしたら体験ができるとか、絵画教室みたいなところの施設の複合で、欲を言うとお土産を買っていただいて、直売もしてもらってお土産として厚田の良い物を買ってもらいお土産にしようという事で、そういうようなコンセプトをしっかりと考えないと、施設の予算なり広さなり場所でいくとぼやけてしまうような気がするので、ここに来ないと出来ない厚田の魅力的な施設というようなものをしっかりとコンセプトの段階で、作り上げ、練り上げていって初めてこういう事をしたいから、こういう施設でこれ位お金がかかるよねという事で、予算が取れるか取れないかという事で取れなかったら小さくするとか、あとは汎用性を持たせるという意味で普通の建て方ではなくて、先ほどありましたように、この広さがあれば他にも変えられるよというような造り方を意識しながら、設計してもらうというようなパターンでいかないと、なかなか辛いのかなと思いますし、実際に、コンセプトを練り上げる時に道の駅や何かでもあると思いますが、行政を批判する訳ではありませんが、行政主体でなかなか長続きしないという事で、第三セクターに丸投げになって、最終的には難しくなっているという道の駅は多々あるので、そういった意味だと、道の駅の中でもコンセプトがハッキリしているところという事で、例えば、深川市ではお米をメインとしており、釜めしによりご飯を提供している訳ですが、やはりその美味しい物を提供してという事でお客さんを集めており、安定しているように見えますけれども、そういうところのコンセプトがハッキリし、ぶれていない所の施設というのは、ある程度息が長いかなという気がします。そこをしっかりと練り上げていくためには、厚田の今のこの話し合いの中だと、地域住民のやりたいという気持ちの強い人を集め、練って練って、行政なり事務局に上手くまとめてもらって、絵を描いていくという事だと思いますが、それが絵に描いた餅にならないように、しっかりと現実味の部分も補足しながらというところで、作っていくのが大事かなという事で、その練り上げで時間がかかるのは仕方ない事だと思いますので、漫画家の原稿と同じで締切は必要な訳ですが、あまり急ぎ過ぎない必要があり、一回の締切で終わりという事では無く、多少、延びても良いのかなという気がするので、しっかり話し合おうという形が取れば理想だなという風に感じます。

佐藤会長：　　ですから当然、今、住民を巻き込んで行なうと言いますけれども、これは住民だけでは

なく、厚田の土地で是非こういう事をやってみたいという人達は地方に居ると思いますので、そういう人も巻き込んで、出来ればワークショップで今、盛重委員が言いましたようにコンセプトを煮詰めていった時に、より具体的でよりやる気があって、この人だったらとか、こういう運営だったら成功しそうだというのが、やっぱり皆さんが共有してレベルの高い形まで引き上げていくという事で、そうすると地域の住民もここまでやらなければ駄目かとか、今までのやり方では駄目ではないかという事で、地域住民も当然、そうやって呼びかけを行ないますけれども、広くという事で今、盛重委員からもありましたコンセプトを明確にし、ぶれないようにという事です。

小笠原委員： 収益と言いますか、そういうところを随分と意識している風を感じる訳ですが、多分、最初から合わないと思われるのですが、それを収益を上げて運営していくんだという事であれば、プロの人達が挟まる形でなければ厚田で何をやれば収益が上がるのかという事から始めなければ、厳しいのかなと思いますので、もう少し、建物があってそれをいかに最大限利用しようとか、そういう軽い考えでも良いのかなとも思いますけれども、いきなり最初から収益うんぬんと始めてしまうとなかなか厳しいのかなと思います。

佐藤会長： 確かにハードルが高いと思います。冬期間を除く、約半年間で儲けなければならないので大変だと思います。だからといって、施設の運営に対する補助金は出ないと思いますので大変なところです。

柴田(志)委員： 場所は厚田の市街地にという事で決まっているのかなという雰囲気聞いていた訳ですが、けれども、どうなのでしょう。

佐藤会長： 決まっております。

柴田(志)委員： こだわり隊の直売所で野菜を売っていると思いますが、通っている人がたまに寄るだけですが、店舗が車で走って行くと直前まで場所が解りにくいみたいで、浜益方面から向かってきてもカーブを超えてすぐの所になるので、曲がりきらないと見えないようであり通り過ぎてしまうようです。駐車場もスペースが限られており、買いたいと思っても停まって買うという事が出来ないという事であり、看板もあまり目立たないという言い方をされて、私自身は、農家で同じ物を作っているので行った事はありませんが、市街地に造るとした場合は、駐車場もある程度のスペースを設けなければなりませんし、建物の規模もある程度必要になってくると思いますので、どうせ同じ事をするのであれば、夕日の丘観光案内所の辺りにスペースだったら駐車場もありますし、凄く入りやすいし遠くから見えやすいので良いと思うと、他の地区の人から言われた事がありますので、場所もそういう所を考える必要があると思います。

佐藤会長： 柴田委員の言いますように、看板を見てというよりも、一番効果的なのは何かと言いますとボンと建物が見え、あれは何だ？というのは一番だと思います。その次に、看板があるとあそこはこうなんだと思いますし、駐車場も充分にあればと思います。

柴田(志)委員： 私もたまに他所の町に行くと、道の駅に寄りたいと思う訳ですが看板を探して行く訳で、ある程度遠くからでも看板となり、こういう所にこういう建物がありますよという物があ

った方が良いのかなと思います。

佐藤会長： 確かに買いやすい、寄りやすいというのは条件になると思います。

小笠原委員： 少し角度が違うかも知れませんが、前から言いたいなと思っていて、なかなか言う機会が無かった訳ですが、この複合施設の策定委員会のメンバーについてですが、自分としては、まず、商工会の職員に入ってもらうとか、漁協であったり農協といった各団体からもメンバーに入ってもらった方が良いのではないかと思う訳で、それで今から屋台とかといった話しの時に、今まで呼んでこなかった商工会とかにさあ出してと言っても、出づらい気がするので、そうならない為にもこれから増やせるかどうかは解りませんが、しっかりと挟んでいった方が良いのかなと思います。

佐藤会長： 大体のアウトラインというのはおかしいかも知れませんが、構想が出来上がりましたので、今、言いましたように今度は、住民そのもののやる気のある人達がそこに集まり、希望も持っておりますので、これはなるべくオープンにさせていただきたいと思いますし、地域協議会の人達がそういうオープンでやっても良いですよという事になれば、早速、第7回か第8回から区内に通知を出してそういう風に私達は思っているんですけども、委員の皆さん方はそういうやり方の承認をいただけたと理解してよろしいでしょうか。

#### 【一同了承】

佐藤会長： 了解いただけましたので、今日の地域協議会はこれで終了致します。

## 6. その他

平成 26 年 5 月 29 日（木） 18：30 ～ 厚田保健センター 多目的ホール

## 7. 閉会

平成 26 年 5 月 29 日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会  
会 長 佐藤 勝彦